

会議名	第4回上田地域広域連合広域計画策定委員会
日時	平成29年6月15日(木) 14時00分から15時50分まで
会場	上田地域広域連合「上田創造館」コミュニティホール大
審議概要	<p>3 議 事</p> <p>(1) 第2回及び第3回策定委員会議事内容の確認について  委員長：委員の発言された主旨と議事内容が違うようなら、御意見をいただきたい。  &lt;結果&gt;全委員：特に意見なし。</p> <p>(2) 広域計画素案の一部修正報告について  事業項目No.13 障害者介護給付費等審査会の設置及び運営に関連して広域連合及び関係市町村が行う事務に関する事  &lt;修正&gt;「施策項目1 障害者介護給付費等審査会の適正な審査の実施」の内容に<u>障害者介護給付費等審査会委員の研修並びに</u>を追加する。  委員長：この項目について、承認としてよいか。  &lt;結果&gt;全委員：承認</p> <p>(3) 広域計画に関する審議について  ア No.1 上田地域の広域行政の推進に関する事  &lt;質疑&gt;委員：定住自立圏構想と広域連合の違いは何か。  &lt;応答&gt;事務局：広域連合は、関係市町村の総意に基づき、その総意が一致した事業を実施している。定住自立圏は、上田市を中心市として、各市町村が上田市と一対一の協定を結び事業を実施している。上田地域に限らず、嬭恋村や立科町も加入している。  &lt;質疑&gt;委員：「今後の方向」の「3地域の一体的な発展」の中で<u>地域の大学の教育機関との連携を図りながら活力ある地域づくりを推進します。</u>とあるが、大学と連携してどのような事を行うのか、また、大学や学生にどのような働きかけを求めているのか。  &lt;応答&gt;事務局：長野大学では、地域との結びつきの中で、地域社会学を研究されてきた経過があり、その研究成果や経験を御意見としていただきたい。大学生には、各種事業運営に際し、学生ボランティアとして参加いただいている。他にも、上田創造館において信州大学と地元企業が行う共同研究の内容を展示するなど、大学活動が地域の中に浸透していければ良いと考えている。  委員長：この項目について、承認としてよいか。  &lt;結果&gt;全委員：承認</p> <p>イ No.2 広域的な幹線道路構想・計画に基づく事業の実施に関連して広域連合及び関係市町村が行う事務に関する事  委員長：上田地域30分(サンマル)交通とあるが、30分で目的地に到着することが厳しい場合もあるがどうか。  &lt;質疑&gt;委員：広域計画(別冊)は5年前の資料で、現在との違いがわかりづらい。今回の広域計画の改定で、内容を新しくするのか。  &lt;応答&gt;事務局：関係市町村へ照会し、内容を刷新する。  &lt;質疑&gt;委員：5年前と現在の計画内容が一目でわかるような、資料にして欲しい。  &lt;応答&gt;事務局：現状の資料と同じ様式ということで御理解いただきたい。  &lt;質疑&gt;委員：広域道路網を整備することで、広域観光に資する道路とあるが、上田地域も新幹線による東京通勤圏になりつつあり、首都圏からの移住が可能と考える。こうした観点から移住誘致も視野に入れたらどうか。  &lt;応答&gt;事務局：広域行政として、このようなことを実施するのは難しい。市町村単独や定住自立圏の中で、移住・定住施策として検討をしていくと思う。</p>

審議概要

<質疑>委員：渋滞が頻発し、30分(サンマル)交通圏の実現ができていない箇所がある。橋の整備など5年前と状況は変わってきている。

<応答>事務局：渋滞解消については、当該市町村において検討されており、道路整備には時間がかかる。本計画に位置付けられているが、広域連合は市町村の整備計画をまとめ、連携を図ることで広域的な取り組みとしている。

委員長：この項目について、承認としてよいか。

<結果>全委員：承認

ウ No.3 関係市町村の土地利用計画の調整に関すること

<質疑>委員：太陽光発電機が東御市の傾斜地にも多くあり、大雨時の災害が心配。

<応答>事務局：太陽光発電機の設置は、排水について、面積に応じた雨量計算を行い、一気に流すのではなく、調整池を作り徐々に排水するなど規則に則って進められているので、問題はないと考える。

委員長：この項目については廃止としてよいか。

<結果>全委員：承認

エ No.4 広域的な観光振興に関すること

<要望>委員：広域観光パンフレットはとても見やすく、改めて地元の魅力を感じることができた。もっと広く発信をしたらどうか。

<質疑>委員：インバウンド対策の「着地型」とあるが、もう少しわかり易い説明が欲しい。今は体験型のツアーがとても人気がある。冬は雪や氷の灯籠や餅つき、夏は浴衣を着て盆踊り等、私たちが当たり前に思っているような体験が、東南アジアの方たちに人気がある。2020年の東京オリンピック開催時に、外国人観光客に上田地域へ足を延ばしてもらうために体験型の広域プログラムを作り、地域内を観光してもらえるような提案ができれば良いと思う。マレーシアなどイスラム教国には、ハラームといって食べてはいけない食材があり、それに則って信州の安全な野菜や信州サーモン等を活用した、安心して食事のできる施設の情報をホームページ等で紹介するようなことを具体的に記載したらどうか。

<応答>事務局：着地型旅行商品については、注釈を加える。その他の御提案については、今後、上田地域観光協議会の検討資料として承る。

委員長：これについては、文言の注釈を入れ、次回再提出していただくで承認でよいか。

<結果>全委員：承認

オ No.5 調査研究に関すること

<質疑>委員：地域包括支援ケアシステムは、第6期介護保険事業計画の調整課題で、厚生労働省はその次の課題として、地域共生社会で子供から児童、障がい、高齢、生活困窮者まで、全ての人たちが暮らしていけるように、既に障がいは地域包括支援ケアシステムと同じ仕組みができてきている。ここから5年間という大分進むと思うが、地域共生社会に向けて全ての人に關わる包括的なシステムの構築というような総合的な記述にした方が適切ではないか。

<応答>事務局：今回、調査研究の内容を関係市町村と協議したが、第5次広域計画の中では地域包括支援システムのみを記載した。今後、地域共生社会等について検討が必要になれば広域連合としてできることを協議していきたい。

<質疑>委員：東御市の中でも地域共生社会の活動が進んできている。5年後のことを考えると、できれば取り入れて欲しい。

<応答>事務局：地域共生社会については承知していたが、素案検討中は、まだ法律化されていない状況だったため、今回は計画に入れていない。実際には今後5年間で新しい概念に各市町村が向き合っ、広域的な課題として捉えることが必要となれば、ワーキング会議等を行っていくことも想定している。

<質疑>委員：制度が実際の現場に追い付いていない。その現状をどこまで計画に盛り込むことができるか。

<応答>事務局：医療介護連携等、広域単位で取り組んだ方が良く、小さい単位で取り組んだほうが良いこととある。最初から大きい取組で何かを検討することは

審議概要

すぐには想定できない。小さな取り組みをするためには、関係市町村間での情報交換や、必要な部分は広域対応をしなければならない場面は出てくるので、それは調査研究に値し、まだ計画に記載はできないと考える。

<質疑>委員：先を見据えても方向は決まっている。むしろ地域包括ケアシステムは、高齢者専攻で本来はもうできていなければならないものであるが、なかなか各市町村の実状に合ったものができていない。児童、障害者、高齢者、生活困窮者までの部分を考えると、市町村が個別に行いながら、同時に広域で緩やかにつながって全てを支援する方向として、広域計画に入れたと思う。このことも調査研究事業に今から入れておいた方が良くと思ったが、関係市町村との関連があるのなら無理にという訳ではない。

<応答>事務局：貴重な御意見をいただいたので、関係市町村と協議し検討したい。

委員長：この項目については、一部の内容について追加提案をすることで承認でよいか。

<結果>全委員：承認

**カ No. 7 上田創造館の設置、管理及び運営に関すること**

<質疑>委員：小学校・中学校での校外学習とは具体的に何を実施しているのか。また、より質の高い事業の実施とはどのようなものか。

<応答>事務局：学習支援として、上田地域の全ての小学校を対象に太陽の観察、プラネタリウムを利用した月星の動き方の学習や、魚(サバ)の解剖を行っている。質の高い事業については、プラネタリウムにおいて、小中学校の児童の身近な場所で、来館当日の夜の星空を再現するなど、学習内容により興味を持ってもらうような取り組みを行っている。

<質疑>委員：校外学習の利用者も高校生大学生まで対象としており、大学生として学生も一体となって上田創造館を地域の科学館として盛り上げていけたらと思う。そのために大学生に何か要望はあるか。

<応答>事務局：大学生にはボランティア活動をしてもらっている。新たに大学の研究の成果を創造館で発表するような企画を考えていただければと思う。

<質疑>委員：開館当時から利用している思い入れのある施設だが、あまり変わり映えしていない気がする。地域の科学館として、子供たちが肌で触れて楽しめるような先進的なものが増えていくと良いと思う。このことは、管理運営ビジョンに記載されているのか。

<応答>事務局：大型備品の入れ替えや施設の大規模なリニューアルは、多大な経費を要することから管理運営ビジョンには記載されていない。現在、開催されている「上田地域企業&キッズフェア 2017」は地元の企業の御協力をいただき、LEDを使って植物を栽培する等、子供たちに最先端の技術に触れていただく企画を行っている。

<要望>委員：是非、子供たちが、2度3度行きたくなるような施設にしていきたい。

委員：創造館での事業は、発信された内容が現場に来てやっとわかるようなことが多い。子供たちが育っていくためのソフトな面が培われていくのはとても大事と感じた。これからも「地域の科学館」として、地域貢献できる施設になって欲しい。

委員長：この項目も継続ということで承認としてよいか。

<結果>全委員：承認

**キ No. 9 上田地域の情報化に関連して広域連合及び関係市町村が行う事務に関すること**

委員長：この事業項目について、廃止ということで承認としてよいか。

<結果>全委員：承認

**ク No. 18 斎場の設置、管理及び運営に関すること**

<質疑>委員：指定管理者制度について、簡単に教えて欲しい。

<応答>事務局：所有や最終的な権限は広域連合であるが、管理運営を指定された法人に委ねること。

<質疑>委員：北御牧地区は、合併後大星斎場の利用区域となっているが、丸子の依田窪斎場はとても近く利用し易い。利用区域枠の撤廃を早めにして欲しい。

審議概要

<応答>事務局：地域の状況を把握し、対応を関係市町村と協議し検討したい。

委員長：この項目について、承認としてよいか。

<結果>全委員：承認

ケ No. 19 広域計画の期間及び改定に関すること

委員長：この項目について、承認としてよいか。

<結果>全委員：承認

(5) その他

4 その他

(1) 広域計画策定に係るパブリックコメントの実施(案)について

(2) 次回以降の開催予定

- ・第5回 7月25日(火) 午後2時から 上田市丸子地域自治センター講堂
- ・第6回 8月22日(火) 午後2時から 上田市丸子地域自治センター講堂

5 閉会